広報かじき

No.324
昭和56年11月号

発行　加治木町
編集　総務課

“実りの秋”　カナクダで陸稲（もち米）の収穫

小山田の西浦子ども会では、今年、自然の中で「手づくり」をし、親子のふれあいをもとうと陸稲（もち米）の栽培に取り組みました。この収穫が１０月１７日に行われましたが、現代の子ども達に昔の農機具を知ってもらおうと千把扱（せんばこき）（カナクダ）や足踏脱穀機を使い親たちの指導のもと収穫に汗を流しました。

◆人口　22,642(＋36)　男10,676(＋24)　女11,966(＋12)　世帯 7,620(＋12)　56.10.1現在(　)前月比

第三回町議会

加治木保育所や議場新築

工事請負契約締結等可決

昭和五十六年第三回町議会定例会は、九月三十日から十月二十三日までの二十四日間の会期で開かれ、加治木保育所や議場の新築工事請負契約、これらに伴う補正予算、昭和五十五年度決算認定等議案十一件、陳情五件が上程審議され、議案については原案どおり可決、陳情については、一件が採択、二件が不採択、一件が取り下げ、一件が継続審査となりました。

次に可決された主なものについてお知らせします。

消防庁舎の起工式

保育所等新築工事請負契約の締結

加治木保育所等新築工事請負契約は、指名競争入札の方法で行われ、加治木保育所は、二見建設工業有限会社と五千五百万円で、町議場は、中島建設株式会社と五千八百万円で、町消防庁舎は、松田建設株式会社と三千六百七十万円で、旧加治木中学校南校舎改装工事は、大英建設株式会社と六千二百万円で、それぞれ契約締結することに可決されました。

五十五年度一般会計等決算を認定

昭和五十五年度一般会計、国民健康保険、水道事業、簡易水道等特別会計の決算は原案どおり認定されました。

一般会計の決算額は、収入済額四十八億二千五十九万二千四百三十三円、支出済額四十七億九千三百七十八万五千八百五十円、差引額二千六百八十万六千五百八十三円で内財政調整基金（積立金）へ一千四百万円、残りの一千二百八十万六千五百八十三円が五十六年度へ繰り越されました。

町教育委員に榎薗明氏を再任

町教育委員会委員に小山田の榎薗明氏（五六）を再任することに同意しました。

一般会計補正予算二億四百十一万一千円

今回の一般会計補正予算は、二億四百十一万一千円を追加して、五十六年度予算総額は、歳入歳出それぞれ、四十二億七千九十七万七千円となりました。

主なものは、旧加治木中学校校舎改装工事費や、地域し尿処理施設費の委託料、塵芥処理費の負担金、生活改善センター工事請負費、災害復旧費等であります。

税を知る週間11月11日～17日

この社会あなたの税が生きている

わたしたちの社会をより豊かにより住みやすくするために、税金はいろいろな面で使われています。

身近なところでは、社会福祉、道路や下水道の整備、教育、住宅対策など幅広い分野でわたしたちの生活の後押しをしてくれている税金―。

税金は、わたしたちが安定した生活を望むとき、社会の一員として負担しなければならない「会費」と言えるでしょう。

十一月十一日から十七日までは「税を知る週間」です。統一テーマは「この社会あなたの税が生きている」―。

この機会に、わたしたちの生活向上のために税金がどのように使われているか、教育費を例にとってみてみましょう。

小学生一人当たり約41万円の税金が使われています

わたしたちの身の回りで生きている税金。具体的には、どのように暮らしを支えてくれているのでしょうか。

たとえば教育費。公立学校の生徒一人あたり税金による負担額（年間）は、次のとおりです。

小学生、約四十一万円
中学生、約五十万円
高校生　約五十七万円

これを、わたしたちが納める税金（直接税）と比較してみますと、年収三百万円の夫婦と子供二人のサラリーマン家庭で、一年間に納める税金は所得税（国税）と住民税（地方税）あわせて約十二万円です。

もちろん、わたしたちが納めるのは、所得税や住民税といった直接税ばかりではありません。間接税も納めています。酒税や物品税砂糖消費税、入場税などがそうです。このような間接税も、教育費をはじめいろいろな分野に還元され、暮らしに役立っています。文字どおり、この社会にあなたの税が生きているのです。

県小・中学校作文コンクール

第三十一回全国小・中学校作文コンクール（読売新聞社主催）の県審査がこのほど行われ、錦江小六年の樋口葉子さん。「加治木のくも合戦」が小学校高学年の部で最優秀賞に選ばれました。

これは県内応募作品百八十編の中から選ばれたもので、この最優秀作品は、十一月に行われる中央審査に県代表として送られます。

作品を紹介します。

最優秀賞「加治木のくも合戦」

錦江小六年の　樋口葉子さん

「加治木のくも合戦」

社会科の時間の「郷土の歴史」というところで、わたし達は日本の三大祭りである京都の「八坂祭り」東京の「神田祭」大阪の「天神祭り」を習った。

平安時代といって、今から約千百年も前に全国にはやった伝せん病をおいはらうために、おいのりをしたり、神社へほことみこしをおくったのが始まりだったと言う。

祭りの話をしてくださる時、先生はまるでその時代、その場にいるように、楽しそうに見えた。社会科作業帳に目をとおしていると下のらんに、「みなさんの郷土で行われている祭りを一つとりあげて、祭りのおこりやいわれについて調べてみましょう」と書いてあった。

家に帰ったわたしは、さっそく母に聞いてみることにした。それは、わたしは加治木町で生まれて十一年も住んでいるのに、自分の町の祭りのことをあまり知らなかったからである。

「ねえー、お母さん、加治木町にはどんな祭りがあるけえー」「たいこおどりや、馬おどりは知っているけど、他にまだあるの」「そうだねー、まだ葉子は見たことがないだろうけど、『くも合戦』というのがあるよ。六月どうは、毎年家族で行っているしね。くも合戦はね、お母さんが小さいころから、毎年五月にあってね。一本のぼうの上でくもとくもを戦わせるのよ。行司のおじさんもね、口にふくんだしょうちゅうを、プッとくもにふきかけてねー。」と昔自分が見て喜んだことを思い出すように、得意になって話してくれた。

「そのくもは、どこから採ってくるのね。」

「合戦の何か月も前から山をあっちこっち歩き回ってねー。大きくて強そうなのをつかまえて来て、その日まで家の天井にはわせて飼っているのよ。」

わたしは、どんなくもがどんなふうにして人に飼われたり、戦ったりするのか、ぜんぜん知らないので、「ふんーん。」

と、言って、ただ母の話を聞いていたが、何だかおもしろそうだなと思った。すると、母は、「葉子、この本を読んでごらん。郷土の祭りや行事のことが書いてあるよ。」と言って、「鹿児島民俗散歩」という本を手わたした。こんな本、わたしの家にあったかなあと思いながらも、「みだし」から、くも合戦の五十六ページをさがして読みはじめた。

この本によると、くも合戦は旧暦の五月五日、水の神様をむかえる日に行われるということである。

くもは水神様で、六月にはじまる田植えに水をめぐんでもらうようにいのったこと、また、その後は、島津義弘のころ、武士をはげますためにくもを戦わせて、元気づけたことなどがくわしく書いてあった。また、くも合戦は加治木だけのお祭りだと、わたしは母から聞かされていたが、この本の「くも合戦の分布図」を見てびっくりした。鹿児島県はもちろん、長崎、愛ひめ、和歌山、千葉、神奈川など、多くの地方でくも合戦が行われているからである。そしてどこも、みな、海辺の部落で黒潮に洗われる地方だということである。

この本を読んでいるうちに、むかしの武士が、刀をさしていばって、くも合戦をしている風景を想像してみた。来年はきっと、加治木のくも合戦を見に行こうと思った。あくる日、先生にくも合戦の分布図のお話をした。先生もびっくりして、「それは初耳だ。加治木だけじゃないんだね。」

と、おっしゃった。

そんなある日、先生が、「くも合戦のことにくわしい人が、朝日町にいらっしゃるそうだよ。いっしょに行ってみようか。」

と、声をかけてくださった。わたしはうれしくって、そのことを母に話すと、母は、「まあ、良かったね。先生もおいそがしいのに、ごくろさんだね。」

と、喜んでくれた。

次の土曜日、先生につれられてメモ用紙を用意してわたし達が行った所は、竹之内さんという家だったが、残念なことにこの日は留守だった。しかし先生とわたしはあきらめずに、また、月曜日に竹之内さんを訪ねた。

そのおじさんは、六十歳ぐらいで、くも合戦の行司をつとめる人だった。わたし達が、くも合戦のことをいろいろ聞くと、しわの多い目元をもっとしわだらけにして多くの事を教えてくださった。その人の話では、くも合戦の由来も目的も、わたしが本で読んだ内容と、ほぼ同じだった。その外、わたしの知らなかった事がたくさんあったが、わたしがおもしろいなと、思ったのは、くものミスコンテストがあるという事だった。

「めすのくもには、スタイルや色つやのよかのがおってなあー。おすなんどは、すがたも悪く、やっせんもんごわんさー。試合に出っとは、みんなめすぐもごわんど。」

と、竹之内さんは、めすのくもの美しさを自分の事のように、ほこらし気に話される。

わたしは、くもの美しさなんて話を聞いただけでは想像もつかなかったが、何だか、分かるような気もした。

また、くも合戦では、勝ちぬき戦でチャンピオンを決めるということで、その間は、一しゅんも目がはなせない、と、いうことであった。

最後に、「くもを死ぬまで戦わせることはありません。戦いがすんだら、山野にもどしてやっとごわんさー。」

と、聞いた時、わたしは、むかし戦いに出た人達も、死ぬまで戦わなければよかったのに、と思ったり、くもの心やむかしの人の心をさっしたりした。

わたしは、社会科の学習をきっかけにして、くも合戦のことだけでもたくさんのことを知った。

まだまだ、自分の住んでいるこの加治木町には、母やわたしの知らない行事や祭りがあると思う。

これからは、郷土の歴史にも目を向けて、いろいろな機会や時間を利用して、自分の住んでいる町のことを勉強しようと思う。

県・郡畜産共進会 本町は団体で一位

五十六年度県・郡畜産共進会は九月から十月にかけ、それぞれの日程で始良郡中央家畜市場で開かれ、本町は郡畜産共進会の肉用牛の部で優勝するなど立派な成績をおさめました。

各部門ごとの成績は次のとおりです。

郡乳牛共進会（九月十八日）

優秀賞＝堂下光志（小山田）緒方功（日木山）橋口弘（日木山）

郡畜産共進会（九月二十八日二十九日）

団体成績

肉用牛一位、種豚三位

個人成績

肉用牛の部

最優秀賞＝前畠春雄（西別府）穂満サチ子（木田）岩穴口修（同）有馬義則（同）前田秋義（小山田）扇園ハツヱ（木田）西村照雄（西別府）

優秀賞＝内村靖夫（小山田）

種豚の部

最優秀賞＝末吉君子（小山田）

優秀賞＝徳部久志（小山田）柚木満（反土）

優良賞＝下小牧重夫（小山田）

県畜産共進会（十月七日～九日）

最優秀賞＝扇園ハツヱ（木田）西村照雄（西別府）岩穴口修（木田）有馬義則（同）

父系群の審査風景

集った加治木会のメンバー

30余年続いている 東京加治木会

先日、町役場に、東京在住の壱岐健志さんから、『東京加治木会』の近況を知らせる手紙と写真が届きました。『東京加治木会』は三十余年続いている加治木町出身者の集まりで、この日も二十人程が集まったようです。以下、原文のまま掲載しますが、この記事についてのご意見、ご希望がありましたら葉書、又は、封書で町役場総務課「広報かじき」係までお寄せください。

『抜けるような青空が広がり、さわやかな秋晴れだった十月四日、東京・加治木会が、都内の三州倶楽部で開かれた。

岸野吉会長、法元六郎副会長をはじめ、八十三歳の宇都宮直賢さん、八十歳という白尾干城さんら長老も元気に姿を見せ、老若約二十人が出席、日曜の午後のひとときを楽しんだ。

焼酎やビールで、ピッチがあがるに連れて気がねも消え、宇都宮、法元先輩の武勇伝、十銭で五個時代の「加治木まんじゅう」を学校帰りにぺろり食べたこと、春日神社前の土手で寒風をついてのタコ揚げ、魚釣りなど、ふる里の四季を通じて学び遊んだ、それぞれ懐しい想い出の話題がつきなかった。

花の都での加治木会は、昭和二十五年から続いており、三十余年の歴史を積み重ねてきた。が、惜しむは参会者が、ちょっと少ないことだ。この日も盛会策についてチエをしぼった。結局、ことし暮に役員が協議し、対策を練ることになった。

毎年一回、ふる里談義に、花が咲く集いに久しぶり顔を出したが、余生に向けて心の〝清涼剤〟として深く感じた。役員諸兄のご足労に感謝します。

壱岐健志記』

全国書道 検定に合格

さる九月二十日実施された第百十四回全国書道検定に、町内から出品された次の方々が、めでたく合格されました。

▽漢字科高校・一般

七段＝梅木テル、肥田　栄

西田吉二、新原文雄

五段＝滝本伴之助、稲留ヒロ子

桐山三千代

三段＝湯川武雄

準三段＝宝蔵利子

準二段＝長野利也、竹内雪子

吉村久美子

初段＝上野　光、向江豊志

大宮路照子、古江陽子

前山トシ子

準初段＝野間育人

▽かな科高校・一般

五段＝肥田　栄

二段＝野間出美

初段＝宝蔵涼子、河野靖子

▽教育部（小・中学生）

準四段＝湊　博一

準三段＝市成美智代、森園隆治

宝蔵郁代、松田　聡

初段＝岩切百合子、勝目恵子

桃木野美晴、今村陽一

（級位十級から一級までは省略）

時間励行

町民みんなで時間を大切にし会合等時間を守りましょう。

永原小に文部大臣賞
学校給食優良校で

文部省はこのほど昭和五十六年度学校給食優良校を決め、十月二十二日、埼玉県で開かれた、第三十二回全国学校給食研究協議会で表彰しました。

その中に町内永原小学校が、県内三校のうちの一校に選ばれ、文部大臣表彰状と記念品が贈られました。

永原小（西村義則校長）は児童数九十六人の学校ですが、独立の給食調理場を持ち、小規模校ならではの特長として食事の準備から後かたづけまで、徹底した給食指導と、その大きな教育効果が認められたものと高く評価されています。

楽しいランチルームでの会食

西村校長先生は「今回の表彰は五十二年に県の学校給食優良校表彰以来、地道に続けられた努力が認められたものと思います。児童たちもこの表彰でやればできるという自信と、何事に対しても、やる気を出してくれるものと期待しています。」と喜びを話しておられました。

生産動態調査で
通産大臣表彰

永年にわたり通産省の生産動態調査に協力された町内岩原の(株)田中コンクリートが通産大臣表彰を、また、実務者の霸島豊和さんが調査統計部長表彰を受けました。

生産動態調査は鉱工業生産の動態を明らかにするために行われるもので、田中コンクリートはこの統計実務の功績がきわめて大であったとして表彰されたものです。

この伝達表彰式は、十月十九日町長室で行われました。

町長から霸島さんに表彰状が伝達

網掛川も汚れています
町衛生協会理事等が河川診断

小春日和の一日、町衛生協会理事の方々が網掛川の河川診断パトロールを行いました。

当日は、衛生協会理事をはじめPTA会長、婦人会長、町議会議長、子供会育成連絡協議会長等二十人が、網掛川の右岸、左岸に分かれて、空カン、空ビンを拾って歩きました。

最近は、各地で空カン公害等問題になっていますが、本町でも国道十号線沿いや網掛川河口等でゴミや空カンの違法投棄が行われ、周辺の住民の方々の苦情の一つとなっています。

半日行われた河川診断パトロールで集まった、ゴミ、空カンは、車二台分にもなり、参加者は予想よりも多かったゴミの量に驚くとともに、今後も清潔な加治木町をつくるために努力を続けることを確認しました。

読者の皆様もゴミや空カンの投げ棄てを行わないようにしましょう。

〝ちょっと待て！そのポイッが街汚す〟

河川清掃に汗を流した皆さん

稚貝七トンを放流
須崎・黒川海岸等

錦海漁協（春山鉄翁組合長）では、十月十三日、須崎海岸等五箇所にアサリの稚貝七トンを放流しました。

これは、来年の解禁まで繁殖保護を行い、三月解禁予定時に町内外の親子連れ等に楽しんでもらおうと放流されたものです。

放流された稚貝は、熊本県玉名から運ばれてきたもので、漁協の関係者等が七隻の漁船に分乗して黒川尻、網掛川尻、別府川尻、山野海岸、思川尻等に放流しました。

このため、来年の解禁時までは、採取が禁止されます。

黒川岬に放流される稚貝

町さわやか少年
ソフトボール大会
優勝は諏訪チーム

第四回加治木町さわやかソフトボール大会が、十月十八日、町営運動場で開かれ、諏訪子供会が優勝しました。

この大会は、少年たちがソフトボールを通じて身体を鍛え、フェアプレーの精神を培い、正しく力強く生きる人間をつくることを目指すとともに、地域子ども会の発展、充実を期する目的で、町子供会育成連絡協議会が主催したものです。

出場チームは、各単位子供会で十八チーム、二百五十人が参加しさわやかな秋晴れのもと、小学生六人、中学生三人の編制で熱戦が展開されました。

成績は次のとおりです。

優　勝＝諏訪子供会
第二位＝東塩入子供会
第三位＝萩原子供会・永原子供会

狩猟解禁
十一月十五日から

婦人のコーナー

秋のとりいれも終わりいよいよ冬の到来です。
冬支度、もうできましたか？

あすの姶良を拓く婦人たち
―姶良地区婦人大会―

さる十月十九日、国分市中央公民館において、姶良地区の各種婦人団体が、「うるおいに満ちた地域づくりを推進しよう」と婦人大会を開催しました。

各婦人団体（婦人会・農協婦人部、商工婦人部、漁協婦人部、母子福祉会、PTA、栄養改善推進員、生活改善、民生委員婦人部、生活学校）の代表が、生活を豊かにして、住みよい社会づくりを推進するために活動しているようすを発表し、意見の交換がなされました。その中で、うるおいに満ちた地域づくりを進めていくためには住民のひとりひとりが、わたしのために、あなたのために、社会のためにと手をつなぎあった生活をすることが大事ではないか。そのためには、婦人会活動、公民館活動など地域活動へ積極的に参加するようにしなければならないなどの意見があり、各町でも婦人の集いを開催するよう申し合わせました。また午後から「新しい時代を担う婦人像」、という演題で、託摩治一先生の講演がありました。

わたしの手は、どんな手のつなぎ方をしているだろうと反省してみることでした。

あなたの手は、家庭の中で、地域の中で、どんな手のつなぎ方をしているでしょう。

生活学校から
―もう一度食品に目を向けよう―

生活学校では、食品添加物について、対話集会を開きました。

商工会、スーパー、行政の代表の方々に出席していただき、「私たちの身のまわりの食品添加物とその害」という映画を見たあと、意見の交換をしました。

○日付を正確にしてほしい。
○無添加の食品をもっと多く店頭に。

という消費者の要望に、

○売り上げは減っても、無添加のものを出す努力をしている。
○無添加コーナーを設置する計画。
○日付はきびしくチェックする。

など店員の方々からもたのもしい回答をいただきました。

私たちは、自分で選んで買い物をします。私たちは、もっと勉強して、食品に関しても目を養い、添加物の入っていない「無添加」の表示のあるもの、日付などに注意を払いたいものです。

すべて健康につながる事ですから。――

また、食品の事とは別に、石けんと合成洗剤の見わけをしっかりしようとか、やたらとさわり、商品にキズをつけないようにしようとか、スーパーなどで買わないものはもとのところに返そうとか、消費者のモラルに関することも、生活学校生の中から意見が出されました。

売る身になって、買う身になって、毎日よい買い物をしたいものです。

加治木町PTA連絡協議会長賞
（55年度省エネ作文コンクール入賞作）

ひとりひとりが

永原小　五年　東　由紀子

わたし達の住んでいる日本には、何の資源もありません。だからあちこちで、「省エネ。省エネ」。「省資源。省資源」と言われています。わたし達もいろいろなことをして、石油や資源を少しでも節約しようとしています。

学校では、くもりで教室が暗いと電気を付け、明るくなると先生が、「省エネ。省エネ」と言って電気を消します。

家では、特別に寒く冷えこむなあと思う時だけストーブをつけ、こたつだけで体が温まるという時はストーブをつけず、着るもので調節します。

それにテレビを見終り、つけっぱなしにしていると母が、「こら、だれがテレビを見てんの」。と言って注意をします。

その外に、おふろは、たきものでたいているし、間をおかないで入っています。そして必要のない電気は消しています。

こんなにして家や学校でいろいろな工夫をしています。

子どもは、ストーブやこたつなどで温まるよりも、外で思いっきり遊びあせをかいて温まるほうがいいと思います。

日本は何の資源もないのに、工業では世界第二位になっています。それは原料を輸入にたより、いろいろなものを作っているからです。

わたし達は社会の勉強で石油製品に関係あるものなどを習いました。

石油製品、たとえば衣類、化学肥料、薬、ゴム類などは、わたし達の生活にはかかせません。

しかし、そういうものを作ることによって病気になる人が出てきたり、石油がなくなったりしてきます。だからしょうがないのです。

次は、わが家の省エネ作戦です。

父は、ガソリンを節約するために最低限度の車の利用をしています。

母は、長い煮物をする場合、ガスより安い煉炭火ばちをおこします。

祖母は、早ねと電気をまめに消す。

わたしは、できるだけ昼間のうちに勉強をします。

歯をみがく時、水を出しっぱなしにしない。じゃ口をひねる時はきちんとひねる。石油製品に囲まれながら、石油を節約しようとしています。

家でも学校でも、わたし達の住んでいる日本に、石油がたくさんあればいいなあ、たくさんとれればなあとわたしは思います。そしたら今、みんなが口にしている、「省エネ。省エネ」「節約。節約。」という言葉がなくなるかもしれません。

しかし現実は日本にはほとんどといっていいほど石油はありません。

また今石油を産出している国もいつまでも石油が出るとはかぎりません。地球上の石油を少しでも長く地球上に残すために、世界中の人が少しでも節約するようにしないといけないなあと思うのです。

生ゴミはその日の朝に出しましょう。

快晴にめぐまれた第33回町民体育祭

早朝から応援もハズム

優勝は錦江一地区

第三十三回町民体育祭は、体育の日の十月十日、加治木中学校グラウンドで行われ、錦江第一地区が健闘して優勝に輝きました。

ことしの大会は、前々日の雨のため、会場が町営運動場から加治木中に変更され、当日の天候が心配されていましたが、青く澄みきった絶好の体育日和りに恵まれ、にぎわいました。

当日は、午前九時から体育協会理事長を先頭に加治木中の陸上部による国旗、体協旗に続き、役員団、各地区の選手団、体協の専門部員が入場し、開会式では、東大会会長のあいさつに続き選手宣誓では、錦江三地区の田島徹選手が「正々堂々と競技することを誓います」と元気いっぱいに行いました。

プログラムは、二十四種目で、うち地区対抗の採点種目が十二で、町内保育所、幼稚園の遊戯に始まり競技に入りました。

採点種目の一番目、千メートル走には、おなじみ城北地区の大脇さん(五〇)が今年も元気なところをみせ、快走し、ロードレース五千メートル走には、みろくの大濱政徳さん(六三)が力走。そして、錦江第三地区では、この日のため自作の大ゲタ等をつくり応援を行い大会に花を添えました。

また、高校総体等で立派な成績をおさめられた、次の方々を本大会の席上で表彰しました。

監督川越嘉兵衛（加工高）選手
吉田祐一郎外五人（同）川畑拓也（加中）隈原伸一（同）

体育祭成績

（○内は前年度の成績）

優勝	錦江一地区	一九七点	②	
二位	城北　地区	一八八点	①	
三位	永原　地区	一五一点	⑥	
四位	竜門　地区	一五〇点	④	
五位	城東　地区	一四七点	③	
六位	城南　地区	一三三点	⑧	
七位	錦江三地区	一一六点	⑦	
八位	城西　地区	一一四点	⑤	
九位	錦江二地区	九〇点	⑨	

五十六年度　社会体育年間総合成績

優勝	城北　地区	八六点	①
二位	城南　地区	六六点	⑨
三位	永原　地区	五九点	⑤
四位	錦江一地区	四七点	②
五位	錦江三地区	四四点	⑧
六位	竜門　地区	三五点	⑥
七位	城西　地区	二五点	⑦
七位	錦江二地区	二五点	④
九位	城東　地区	二一点	③

五十五年度社会体育年間総合躍進賞

一位	城南　地区	五一差	⑨
二位	城北　地区	二八差	①
三位	永原　地区	二十差	⑤

町内保育園児の遊戯

ジャンケンポン

決死のゴール

竜門の会

ここからは秋風のみのけもの径　横山　江南
谿川の風が触れゆく臭木の実　井之上透山
芒野や手にたしかむる湯の流れ　能勢真砂子
朝毎に伸びの早さよ貝割菜　宮脇　思川
集魚灯かざす舟ゆく鰯雲　小里　トミ
毬栗や充実欲しき日日なれど　田代　俊泉
露けしや岩に石積む地獄谷　川崎　黒兎
コスモスにきらめき落つる堰の水　鶴田　耕
秋の陽を畳みつ河口潮のぼる　高木　正男
柿もぐや竿にまつはる日の眩し　加藤　白柳
秋茄子や女のごとき日の光る　古江　重美
霧に濡れ標識灯のにじみおり　上野　光

たばこは町内で買いましょう。
百八十円二十本入りタバコ一箱で約三十円のお金が町に還元されます。

加治木町 農業祭

期日　十一月二十八日

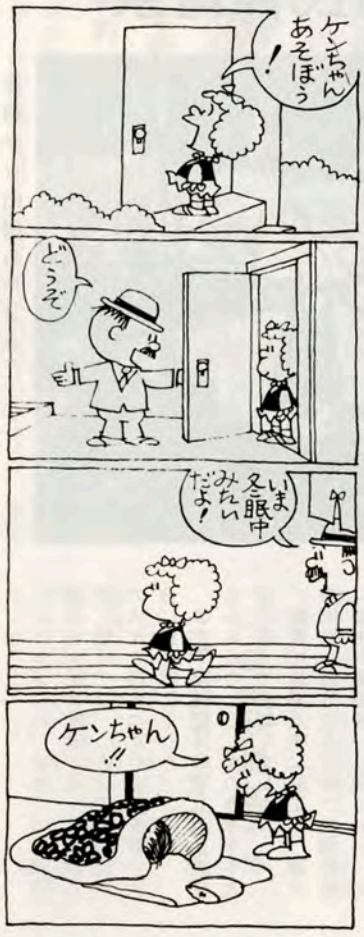
地域農業の振興をはかり、農業者の振興意欲の向上並びに広く消費者にも農業を理解してもらうため、本年も第三回町農業祭が開催されます。

また、農林畜産物の品評会も実施されますので、多数の出品をお願いします。

○期日　十一月二十八日(土)
○時間　午前十時から午後三時
○催しもの
式典・演芸大会・生活改善展示コーナー・農林畜産業展示コーナー・青空市場など。

ほのぼの家族

伊田公彦



うぶ声

九月二十一日～十月二十日受付分

出生者　保護者
内田　稔　自治会
山口まなみ　光一　岩原西
土橋真琴　国秀　蔵王団地
田中哲彦　兼義　蔵王団地
松下大作　勉　豊町
福元裕樹　薫　高井田
古市　彰　隆裕　高井田
石田雅子　敏行　蔵王団地
森永梨紗子　幸治　里ノ下
川上翠紗　幸平　萩原
坂本　茜　昭二　空港団地
尾之上正俊　吉蔵　岩原西
桐原卓也　政　向江町
日高賢一　利廣　蔵王団地
田中善隆　政治　高井田
池畑美沙樹　浩　西浦西
大園裕介　茂樹　豊町
吉井奈々絵　正次　下浜
犬童祐輔　洋久　蔵王団地
椎葉　聡　清徳　毛上
福永忠之　三男　里ノ下
　　博行　春日団地
濱口健悟　高綱　柳田
南原樹里　秋広　日木山黒川
松下奈月　正昭　上浜
馬場　武　光之　里ノ下
迫村加代　正秋　鞍掛
大脇政範　年治　今町
岩澤亮二　浩二　柳田
志摩直美　辰彦　西塩入上
酒匂まどか　久輝　蒲生田
上野敏也　博　西塩入上
鹿倉裕史　裕之　天神
寺師智子　健次　豊町
西村　学　豊　西江口団地
白尾国博　健一　西ノ原

御寄付

香典返しのかわりに御寄付をいただきました。厚く御礼申し上げますと共に故人のご冥福をお祈りいたします。（　）内は故人。

＝町社会福祉協議会へ＝

五万円　田中　石野マツエ（初72）
八万円　柳田　桑幡元長（シゲ70）
五万円　隈原下　榎谷重記（スエ70）
二万円　内原田　山元秀男（エダ89）
二万円　丸岡　榎谷貞則（チカ82）
三万円　岩原西　池田一子（栄87）
二万円　布越　畠中　近（エイ72）
三万円　柳田　有村政光（広庭アキ87）
三万円　長谷　上村キヨノ（光雄65）
三万円　西反土後田井重通（ヨシヅル88）
五万円　岩原東園田竹次郎（千代66）
五万円　中野　西浜ミドリ（藤夫56）
五万円　塩入　山崎昭（松雄83）
五万円　弓削　大野盛次（シズ70）
二万円　天神　下キクエ（森吉76）

＝町育英奨学資金へ＝

十万円　柳田　桑幡元長（シゲ70）
一万円　隈原下　榎谷重記（スエ70）
一万円　布越　畠中　近（エイ72）
一万円　柳田　有村政光（広庭アキ87）
一万円　長谷　上村キヨノ（光雄65）
三万円　岩原東　園田竹次郎（千代66）
五万円　塩入　山崎昭（松雄83）

＝町国民年金協議会へ＝

一万円　内原田　山元秀守（エダ89）

○九月二十一日から十月二十日までの御寄付を掲載いたしました。

税金は納期内に

今月は，保険税第４期の納期です。

心配ごと相談

毎週木曜日の午前中，町福祉センターで応じています。

“御気軽に”

校歌募集

加治木中学校

- 締切　11月30日
- 応募先等詳しくは、加治木中学校へおたずねください。